

平成 31 年度研究推進計画

学校名 海田町立海田東小学校
学校長 石川 和明

研究内容・方法の概要

1 研究主題

主体的・協働的に学び、自分の考えを深める児童の育成
～話し合い活動の充実を通して～
地域に開かれた教育課程

2 研究主題設定の理由

平成 27 年度から 3 年間、広島県教育委員会『学びの変革』パイロット校』として、「主体的・協働的な学びのある授業づくり」をめざして取り組んできた。これまでの取り組みを土台として、昨年度は、育成したい資質・能力を「主体性」「思考力」「自己理解」に焦点化し、総合的な学習の時間と国語科を中心に他教科へも広げながら「課題発見・解決学習」の単元開発を行うとともに、協働的な学びの場の充実を図ることで、学び合いの場において、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したりすることを通して、児童の考えをより深められるような授業づくりに取り組んできた。

本校では育成したい資質・能力である「主体性」「思考力」「自己理解」を次のように定義している。「主体性」は、目的意識を明確にし、「学びたい」という意欲をもち、児童自らが課題を発見し、探究し続けようとする力、「思考力」は、比較・分類・構造化・評価しながら、論理的に考えることや、事象を多面的にみたり、関連付けたりしながら創造的に考える力、「自己理解」は、客観的に自己の学びや学び方を振り返ったり、社会とのつながりや学習の楽しさ、自分の成長に気づき、次の学習へ学びをつなげようとしたりする力である。

これらの資質・能力の育成のためには、主体的・協働的な学びの実現に向けて教科等を横断した学習を充実することや、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通して学習を行うことが大切であるという共通認識に立ち、これまでに開発された単元の評価・改善を行いながら「課題発見・解決学習」を進めた。児童の学びの場を「つなぐ」ことを意図し、思考の場の視点や思考スキルの明確化を図り児童と共有したり、話し合い活動の場を意図的に設定したりすることで、児童が互いの考えを相互に結び付け、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、より深く思考しようとする姿がみられるようになった。

単元の構成においては、児童が学びを省察（モニタリング）する場を設定し、「学びのモニタリング」の視点を明確化し、教師と児童が共有化を行うことで、学習内容を振り返ったり、自己の変容を自覚したりする姿が定着しつつある。

一方、課題として、学び合いの場でのペアや小グループでの話し合い活動や全体交流の場においては、互いの考えを交流するだけに留まる場面もみられるなど、児童が知識・技能をつないだり思考をより深めたりできるような教師の発問の工夫等には課題が残った。また、学習としての「評価」においては、単元全体を見通しながら、課題解決につなげる学習の振り返りの場を意図的に設定したり、時間を十分に確保したりし、振り返りの内容を次の学習に生かすことなどにも課題がみられる。

昨年度までの研究の課題をふまえ、今年度も、引き続き、本校と海田南小学校と海田中学校の 3 校（海田中学校区）で協働して研究を進めていく。研究主題を、「主体的・協働的に学び、自分の考えを深める児童・生徒の育成」とし、「主体的・協働的な学びのある授業づくり」を通して「深く考える力【スキル】」「主体的に学ぶ意欲【意欲・態度】」「自己を理解する力【価値観・倫理観】」の 3 つの資質・能力を育てていく。

今年度は、昨年度までの取組を基盤に、「総合的な学習の時間」及び「生活科」と「特別の教科

道徳」の学習を中核としながら、「主体的に学ぶ意欲【意欲・態度】」の育成に向けて、PDCAのマネジメントサイクルを生かし、学年間の系統性を意識しながら、見通しをもち、年間指導計画(カリキュラム)及びこれまでに開発した「課題発見・解決学習」の単元の評価、改善を行い、児童が目的意識をもって学び続けることができるよう、より質の向上をめざした授業づくりを行う。また、児童や学校、地域の実態を適切に把握し、児童の学びをより一層「つなぐ」ことを意図したカリキュラム・デザインを行うことを通して、引き続き「社会に開かれた教育課程」の実現に努めるとともに、「体験活動」を意識し、児童の自己肯定感を高める総合単元的道徳学習プログラムの開発を行う。

「深く考える力【スキル】」の育成に向けては、「論理的思考力」(比較, 分類, 構造化, 評価)と「創造的思考力」(多面的にみる, 関連付け)の二つに整理し、より対話的で協働的な学びのある授業づくりに取り組む。対話的で協働的な学びのある授業を行うために、思考スキルや思考の視点を明確化し、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を自在に働かせることができるような授業構成や、既存の知識・技能をつなげながら、児童が自分の考えをしっかりともち、互いの考えを交流することができるような話し合い活動の場の工夫をするとともに、発問により児童の思考を深める指導方法の在り方を研究していくことが必要である。

「自己を理解する力【自己理解】」の育成に向けては、引き続き、児童自らが学習内容や学び方を振り返るとともに、自己を省察する「学習としての『評価』」に取り組み、単元末の振り返りの時間に、学習の評価を行わせる。付けたい力が付いたかどうかだけでなく、過去の学習内容と関係付け一般化したり、学習内容と自らをつなげ自己変容を自覚したりするとともに、自己肯定感を高めることができるような振り返りの場として充実させる。そのために、単元全体を通して1時間の授業のゴールを見通し、どんな力を付けたらよいか、教師と児童が評価基準の共有を継続して行うとともに、生徒指導の3機能を意識した授業づくりに取り組む。学びを熟考する力を付けさせるために、文字言語で表現し、児童自らが、じっくりと学びを見つめ、学びの成果を自らのものにできるような学習活動の振り返りを積み重ねていきたい。

児童の「主体的な学び」を促すための土台となる「基礎・基本」の確実な定着を図るためには、児童の実態や課題をふまえ、学校全体が共通認識のもとで、学習基盤としての学習環境づくりと集団づくりや、支援の必要な児童を視野に入れた授業のユニバーサルデザイン化、読書活動の推進、スキルタイム(のびっこタイム)等の取り組みを推進していく。

3 研究仮説

対話的で協働的な思考の場を充実させた授業づくりを行えば、主体的・協働的に学び自分の考えを深めることのできる児童が育成されるであろう。

4 研究の内容

(1) 授業づくり

(ア) ○課題を追究する力を育成する「課題発見・解決学習」の授業

・単元構成の工夫

〔必然性のある学習内容, 本質的な問いの解決をめざした課題設定〕

<総合的な学習の時間・生活科>

・育成したい資質や能力を明確にした探究的な単元構成

〔地域・社会への貢献を視野に入れた課題設定の工夫, 各教科との関連, 系統性〕

<特別の教科 道徳>

・体験活動に結びつく総合単元の一部としての授業構成

〔児童の自己肯定感を高める総合単元的道徳学習プログラムの開発〕

<その他の教科>

- ・教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学習過程
〔生徒指導の3機能を意識した授業づくり，言語活動の充実〕

○マネジメントサイクルに基づくカリキュラム（年間指導計画）の評価・質的改善

(イ) ○話し合い活動を充実させた思考の場の工夫

- ・思考スキルの明確化，児童との共有

論理的に考える力…「比べる（比較）」「分ける（分類）」
「組み立てる・まとめる（構造化）」「評価する」など
創造的に考える力…「いろいろな見方（多面的にみる）」「つなげる（関連付け）」など

○考えを表現し，互いの考えを交流することができるような話し合い活動の充実

- ・話し合いの場の設定の工夫や思考ツールの効果的な活用

○既存の知識・技能をつないだり，活用・発揮したりできるような発問の工夫

(ウ) 学習としての「評価」の充実

○児童が学びを省察する場の工夫

- ・「振り返り」の視点の明確化（学習内容・自己変容・自己肯定感）
- ・学びのつながりを意識した振り返り

○教師と児童の評価力の向上

- ・ゴールの見通しを共有するための評価基準の共有
- ・成果物等を通じた評価力の向上

(2) 環境づくり

(ア) 児童の意欲を育む学習基盤づくり

- ・共感的・協働的な学級集団づくり
- ・学習環境づくり
- ・授業のユニバーサルデザイン化

(イ) 日常的な取組

- ・読書活動の充実（読書タイム，読み聞かせ）
- ・スキルタイム（のびっこタイム）の充実

5 研究の方法

(1) 理論研修（研究主題に関わる共通認識）

- ・資質・能力の定義の共有
- ・教科の特性を生かした授業づくりのポイント

(2) 授業研究（一人一回以上の授業研究を実施）

○授業実践を参観し，視点に沿って授業分析を行い検証する。

- ・児童の変容を確かめ，有効な手立てについて検証するための協働的な研究授業
- ・前回までの研究授業の課題を改善し，提案する研究授業

ア 学年部会で，単元構成を行う。（「単元デザイン」の作成）

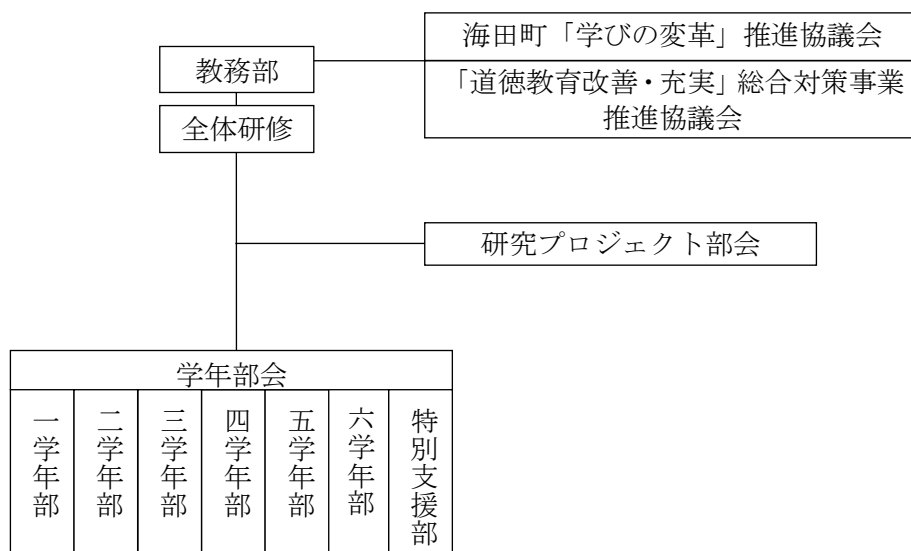
イ 学年部会で「単元デザイン」及び指導案を作成，検討，修正をする。

- ウ 学年で事前授業を行い，指導案の修正をする。
- エ 全体授業研修またはブロック研修を行う。
- ・「特別の教科 道徳」，「総合的な学習の時間」または「生活科」，及び各教科の授業研究を行う。
- ・「単元デザイン」は，学年部で検討・作成してから，本単元の学習に入ることとする。
- ・指導案は，起案の手続きをして学年部で印刷，配布をする。全体授業指導案は講師の先生にも2週間前には送付する。
- ・指導案は，3日前までに全職員に配布し，参観者は事前に熟読する。
- ・学習終了後には，協議会及び指導・助言の内容を反映した修正指導案を速やかに作成し，起案する。

6 研究成果の評価・検証方法

- (1) 授業研究の検証（成果物，授業記録の研修）
- (2) 学力調査と調査問題検証
- (3) 児童・教職員の意識調査の実施と分析
- (4) 保護者の意識調査の実施と分析

7 研究の組織



※専科は各学年部に入る。日本語教室担当は特別支援部に入る。

※専科の学年部会は，実施学年の該当する学年部会で検討を行う。

※総合的な学習の時間については，専科・日本語教室担当は各学年に入り研究に参加する。

※全体研修においては，授業記録（写真等）及び印刷・協議会会場準備などの役割分担を行う。

※ブロック研修は，学年主任が中心となり該当学年部で運営を行う。

8 具体的な研修計画（予定）

月	日	曜	研究内容
5			校内研修 研究主題 推進方針 本年度の方向性について 研修計画について
5	30	木	校内授業研究①示範（道徳担当 4年1組 特別の教科 道徳） 指導案作成について
6	20	木	校内授業研究②全体（なかよし合同）
6	25	火	校内授業研究③道徳教育改善・充実（3年1組 特別の教科 道徳）
7	3	水	校内授業研究④学年（6年1組 特別の教科 道徳） （2年3組 算数科）
7	10	水	校内授業研究⑤学年（4年1組 総合的な学習の時間）
7			カリキュラム・マネジメント見直し・修正
8			学力調査分析・改善計画
9	10	火	校内授業研究⑥道徳教育改善・充実（2年1組 特別の教科 道徳）
9	18	水	海田中学校公開研究会
9	20	金	校内授業研究⑦学年（1年3組 生活科） （専科 理科）
10	4	金	校内授業研究⑧学年（3年2組 総合的な学習の時間） （専科 音楽）
10	16	水	海田西中学校公開研究会
10			校内授業研究⑨計画訪問（6年3組 家庭科）
11	7	木	校内授業研究⑩海中校区（5年1組 総合的な学習の時間）
11	12	火	校内授業研究⑪学年（2年2組 生活科）
11	27	水	校内授業研究⑫学年（6年2組 総合的な学習の時間） （1年2組 ）
12	4	水	校内授業研究⑬道徳教育改善・充実（4年2組 特別の教科 道徳）
1	17	金	校内授業研究⑭学年（5年2組 特別の教科 道徳） （専科 日本語）
1	28	火	校内授業研究⑮学年（なかよし1組 6年目研） （4年3組 外国語活動）
2			校内授業研究⑯計画訪問（1年1組 特別の教科 道徳）

※一人1回以上研究授業，授業提案を行う。

6	5	水	海田南小 特別の教 科 道徳	入澤 河村 小原 山根 田村 石井 瀬戸口 保田
10	29	火	海田南小 特別の教 科 道徳	藤葉 藤原 須山 今村 木本 末武 森 北原
2	4	火	海田南小 特別の教 科道徳	山田 安友 菅 夏 小島 杉本 小寺 奥田 吉岡

※「道徳教育改善・充実」の授業研究には、全員1回以上参加する。